

平成26年度 運営に関する計画

大阪市立生野工業高等学校

1 学校運営の中期目標

1 【視点 学力の向上】

基礎学力を土台として、社会に通用する学力の伸長を図る。

(カリキュラム改革)

2 【視点 道徳心・社会性の育成】

社会生活を営む上で基盤となる知識や生活態度を習得する。

(マネジメント改革)

3 【視点 健康・体力の保持増進】

「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を持った生徒を育成する。

(カリキュラム改革)

4 【視点 進路指導】

目的意識を持って将来の職業選択を行うことができる力を育成する。

(マネジメント改革)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

1 【視点 学力の向上】

① 基礎学力の充実に努める。

② 「ものづくり教育」を推進し、魅力ある学校づくりに努める。

(カリキュラム改革)

2 【視点 道徳心・社会性の育成】

中学校等と連携し、中途退学者の減少に努める。また、社会規範の啓発をはかりながら、集団生活における態度や意識を育成する。(マネジメント改革)

3 【視点 健康・体力の保持増進】

「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を持った生徒の育成を目指して、生徒が心・体ともに健康に生活し、また生徒自ら健康づくりを意識できるように指導する。

(カリキュラム改革)

4 【視点 進路指導】

全学年一貫した進路指導計画の充実を進め、進路意識の向上に取り組む。

(マネジメント改革)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

目標別シート

大阪市立生野工業高等学校

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

<p>【視点 学力の向上】</p> <p>年度目標：</p> <p>①基礎学力の充実に努める。</p> <p>②「ものづくり教育」を推進し、魅力ある学校づくりに努める。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革）</p>
--

取組内容（指標）	達成状況
<p>取組内容①【区分 個に応じた学習指導】</p> <p>学習内容を精選し、指導法を工夫することにより、生徒一人一人の基礎学力の充実に取り組む。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>①〔国 語〕</p> <p>生徒の興味・関心を考慮に入れて教材を選定し、必要に応じてプリント教材を補充する。小テストや復習課題などを繰り返し実施して国語の基礎学力の向上を目指すとともに、暗唱テストや外部の文章表現コンテストに向けた取り組みなど、さまざまな課題を与えることによって、生徒が積極的かつ主体的に学習に向かう姿勢を育成する。</p> <p>指標として具体的な数値を設定するのは極めて困難であるので、「三年間に互る基礎的な学習の成果として、就職試験における国語領域の初歩の土俵へ、概ね全員が上がることができる」の辞を以て、指標に代える。</p> <p>〔地歴公民〕</p> <p>生徒が主体的に授業に取り組めるようプリント教材を活用し、教材を精選して生徒が興味・関心を持つことが出来るような授業を展開する。また、授業において確認テスト等の振り返りを取り入れながら、基礎・基本の定着をはかり、すべての科目において、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の関連を重視した授業をおこない、生徒が総合的な観点から学習できるように工夫をする。1年間の授業を通じて、「興味・関心が高まった」と考える生徒の割合を7割以上としたい。</p> <p>〔数 学〕</p> <p>教材の精選によるプリント学習の充実や、問題演習に重点を置いた複数教員によるきめ細かい指導など、様々な工夫を行う。その1つとして新1年生に対し3項目の基礎的教材を作成し活用する。また2年次の選択授業では、少人数での指導や学習意欲を高める内容の精選によりその効果が現れつつある。3年次は、数学Ⅱ、実用総合数学の授業の中で、共通して進路対策問題に取り組ませて、進路意識の向上を図るとともに基礎学力の定着を図る。</p>	

〔理 科〕

自然科学の基礎的な内容を、日常生活における我々の生活に関係の深い自然現象や法則、科学技術などの解説を中心に授業を行う。基礎事項の小テストの実施や演示および生徒実験を通して学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。また、積極的にプロジェクトを活用し、視覚に訴える教材を用い、生徒に理解しやすい授業を目指す。

年度末において自然科学、科学技術に対する興味、関心がより高まったという生徒を増やすことを目標とする。年度当初と年度末のアンケートを通して、興味、関心の高まった生徒が増えたことを確認する。

〔保健体育〕

体育： 1年間を通して運動技術向上はもちろんのこと、特に1学期には集団行動の大切さを指導し、号令によって全員が動けるようにする。2・3学期には、運動技術の向上と共に、運動に挑戦しようとする心を育てる。また自らが率先して集団を引っ張ることができるリーダー性を向上させる。

保健： 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2年生では、まず生涯を通じての健康を基盤として、1学期に性への知識を深め、2学期には、保険・医療について学習し、知識を深める。そして3学期には社会生活と健康を基盤に、働く人の健康づくりについて知識を深める。

1年生では1学期に、健康について基礎的な知識を深め、2学期には現代社会の健康問題について学習を深め、3学期には応急手当や心肺蘇生法などについて、知識と技術を身につける。

〔美 術〕

生徒が興味・関心を持てる教材の選定を行い、基礎・基本の知識・技術をしっかり身につけさせつつ、机間巡視をしながら声かけを行うことで、時間がかかっても自分なりの工夫をし、作品を仕上げさせるよう取り組む。

年度末において美術に対する興味、関心がより高まったという生徒を増やす事を目標とし、年度当初と年度末のアンケートを通して、興味関心の高まった生徒が増えたことを確認する。

〔英 語〕

中学校レベルの英語が理解できることに重点を置きながら、学習内容を基礎的なものに絞って繰り返し指導することで、基礎学力の定着を目指す。また、週3回派遣される外国人英語講師とも緊密に協力して、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、インタビューテストや定期考査時のリスニングテストの実施を通して、その定着度を測る。

1年生では、一部授業でティーム・ティーチングを取り入れることで、より細やかな指導を心がけ、2・3年生の選択授業でも、少人数制の利点を生かして、ひとりひとりの進路希望に応えられるよう、将来の進路選択を見据えた取り組みをおこなっていく。

各学年ともに週1回程度の単語テストを実施することで就職・進学に役立つ英語の基礎語彙の習得を図るなど、学年進行に応じて基礎力に加え応用力の育成をも目指す。

〔家 庭〕

衣、食、住、家庭経営・経済の分野について、身近に感じられるものを導入として取り入れ、生徒の興味・関心を引き出すように努める。被服実習、調理実習を通して生活的自立に向けた基本的な技能を身に付ける。体験教材や、視聴覚教材を用いて高齢者や妊婦、乳幼児の理解を深める授業を実施する。

〔機 械〕

学習意欲を高めるために積極的にプリントやICTなどを利用することにより学習内容を視覚的及び、個に応じたペースで深く理解できる時間を確保する。また授業に検定試験の内容を含めることで、具体的な目標を持たせる。

〔電 気〕

座学と実習の連携を密にし、理論をより深く理解させる工夫をする。また、教科書にない図や説明を自作プリントなど作成し、個々の学習状況に合わせた指導を行う。

〔電子機械〕

基礎学力の向上を目指し、生徒間格差を解消するために、基礎数学に重点を置いて、幅広く授業展開する。また、個々の学習状況に応じた演習問題を作成したり、自作プリントを活用して、学習意欲を高める工夫を行う。また、短縮授業期間中などに補充授業や補習学習などを積極的に行う。

取組内容②【区分 資格取得等に応じた学習指導】

放課後に講習を実施し、各種資格取得に向けた支援を行う。

(カリキュラム改革関連)

指標

②〔英 語〕

年3回ある実用英語検定への受験を積極的に進めるとともに、講習を長期的、かつ定例化して実施するなど、教科として組織的な指導を行う。3級受験者の50%以上、4級では70%以上の合格を目指す。

〔機 械〕

各種資格・検定については年間を通して分担をしながら計画的に補講を行う。特に中・上級の資格については、春・夏休みを利用して30～50時間程度の集中講義・講習を実施する。2，3年生のサポートを得ることで1年生の補講の内容を手厚くし、他の資格においても検定日前に15時間程度行う。生徒に目的意識を持たせるために、授業で資格の内容を取り入れる。

〔電 気〕

専門教科と検定を連動させた指導を中心に行っている。具体的には、検定日前に5～10時間程度の講習を行い、合格率の向上を目指している。

上期第二種電気工事士試験では、筆記試験に合格した生徒に対し、休日も利用して、実技指導を行う。

<p>〔電子機械〕</p> <p>計算技術検定、情報技術検定、ICTプロフィシエンシー検定、危険物取扱者試験、第二種電気工事士試験などの各種検定や国家資格の取得において、年間放課後200時間を超える集中講義や技能講習を行い、さらなる合格率の向上を目指して、計画的に取り組む。</p>		
<p>取組内容③【区分 特別活動】</p> <p>生徒会活動を中心に、学校行事並びにボランティア活動等に参加させ、自主性と責任感を養う。</p>		
<p>指標</p> <p>週3回の全校朝礼や文化祭で自主性と責任感について、実体験を含め、生徒会役員に基本的指導を行う。</p> <p>また、ボランティア活動として、学校周辺の清掃活動と朝の挨拶運動を行う。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		

目標別シート

大阪市立生野工業高等学校

<p>評価基準 A：目標を上回って達成した</p> <p>C：取り組んだが目標を達成できなかった</p>	<p>B：目標どおりに達成した</p> <p>D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった</p>
--	---

<p style="text-align: center;">【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>年度目標： 中学校等と連携し、中途退学者の減少に努める。また、社会規範の啓発をはかりながら、集団生活における態度や意識を育成する。（マネジメント改革）</p>
--

取組内容	達成状況	
<p>取組内容①【区分 基本的生活習慣の確立】</p> <p>集団生活における態度を理解させながら、挨拶の励行・遅刻の防止等、基本的生活習慣を身につけさせる。 (マネジメント改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>生活指導課を中心に生徒登校時、正門での挨拶運動を実施し、併せて遅刻指導対象生徒も参加させて、挨拶の励行を喚起し、遅刻防止の啓発を行う。</p> <p>全校生徒が元気よく挨拶できる学校づくりに取り組む為の挨拶運動を昨年に引き続き行う。昨年度の大幅な遅刻数を減少させる目標として25分登校の取り組みを実施する。</p>		

<p>取組内容②【区分 規範意識の育成】</p> <p>担任や教科担当と連携し、日常の教科指導中も含めて、時間を守ることや風紀指導等、繰り返し粘り強く指導を行う。(マネジメント改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>常に教科担当者との連携を密にして、指導対象生徒がいれば即応することで問題行動を未然に防ぐ。また、正門の挨拶運動時にも風紀指導を併せて行い、生徒の規範意識を高める。そして、違反頭髪（染髪等高校生として相応しくない髪型）並びにアクセサリー等について4月末までに違反をゼロにすべく指導に取り組む。</p> <p>SNSトラブルが起らないよう随時朝会等で注意喚起を行う。</p> <p>学生服について ① 校章・クラス章を4月中に全生徒に付けるよう指導する。 ② 高校生らしい身だしなみを、身につけるよう指導する。</p>		
<p>取組内容③【区分 人権教育】</p> <p>生徒・教職員が共に人間尊重の自覚を高め、さまざまな差別・偏見の実態を深く学び、差別を許さない意識を高める。</p>		
<p>指標</p> <p>人権教育HRを1年生－2回、2年生－1回、3年生－1回の年4回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年－いじめ・いやがらせの防止、仲間づくりについて。 ・2年－支援を必要とする人の困難について。 ・3年－就労にかかわる人権問題について。 <p>2学期に教職員対象の人権研修会を行う。人権意識の啓発のために人権週間を活用する。人権問題にかかわる事象について生活指導課、進路指導課、特別支援教育推進委員会と連携を行う。今日の社会状況に応じた SNS 講習会を生活指導課と連携し年3回実施する。</p>		
<p>取組内容④【区分 部活動の充実】</p> <p>部・委員会・同好会の活動を通して生徒の協調性や積極性、団結力などの伸長をはかり、活気ある学校づくりに努める。(マネジメント改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>1年生に対し4月に部・委員会・同好会活動の見学・体験を実施し、さらなる加入率の増加をはかる。1学期中に加入状況調査を行い、年度末に定着率調査を行うことで、課外活動の充実の状況を把握する。また、今年度は、リーダー研修を年3回目標に実施する。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		

目標別シート

大阪市立生野工業高等学校

【視点 健康・体力の保持増進】

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

【視点 健康・体力の保持増進】

年度目標： 人間尊重の教育を推進し、「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心を持った生徒の育成に努める。また、生徒自らが心とからだの健康づくりを意識できるように指導する。（カリキュラム改革）

取組内容（指標）	達成状況	
取組内容①【健康な生活習慣の確立】 生徒自らが健康に対する意識を高められるようにする。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 「保健室だより」を月1回、合計12回発行し、全校生徒に配布する。また各学年のLHRにおいて、健康講話を行う。		
取組内容②【救急対応】 校内での事故が発生した際にどのように行動すればよいか、教職員に周知する。 （カリキュラム改革関連） ----- 指標 事故発生時の対応を記したマニュアルを4月中に全教職員に配布する。また、教職員・生徒対象の救急救命講習会を8月末までに開催する。		
取組内容③【教育環境の整備】 校内に危険な場所がないか、また、汚れている場所がないかを確認し、危険の除去や校内美化を図る。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 月に1回、校内大掃除を行い、保健委員の生徒と教職員で美化・安全パトロールを行う。また、学期に1回、校内の安全点検を行う。		
取組内容④【校種間・学校間連携】 近隣の小学校の児童と本校の保健委員の生徒が交流する機会をもつ。 （カリキュラム改革関連） ----- 指標 本校の保健委員の生徒が東桃谷小学校に赴き、授業の中で児童に歯磨き指導を行う。		
取組内容⑤【特別支援教育の充実】 周りの生徒などとうまくコミュニケーションが取れないなど、困り感を持っている生徒に対し、サポートできるような体制を作る。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 教職員が授業や学級などで気になる生徒に関し気づきを持ち確認できる「気づきシート」を4月中に教職員に配布し、活用する。 1年生では、学校生活アンケートを5月中に実施し、生徒自身の困り感を把握し、気づきシートの情報と学習に関する情報を6月末までに総合した上で、1年生教科担当者会議（拡		

<p>大ケース会議)を行い、担任や教科担当が生徒の状況や困り感を把握できるようにする。 以降は支援が必要な生徒に対し、随時対応を行う。</p> <p>2,3年生では、1年生時の実態把握をもとに、引き続き学校生活や進級、進路などに困り感がある生徒に対しては必要に応じて支援を行う。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		

目標別シート

大阪市立生野工業高等学校

<p>評価基準 A：目標を上回って達成した</p> <p>C：取り組んだが目標を達成できなかった</p>	<p>B：目標どおりに達成した</p> <p>D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった</p>
--	---

【視点 進路指導】

年度目標： 全学年一貫した進路指導計画の充実を進め、進路意識の向上に取り組む。

(マネジメント改革)

取組内容 (指標)	達成状況
<p>取組内容①【区分 進路指導】</p> <p>3年間を見通した指導計画に基づき進路指導を行う。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育を積極的に推進し、1年生は自己理解、2年生は仕事理解・啓発的経験、3年生は進路意志決定・具体的方策の実行、を中心とした指導に取り組む。そのために、LHRの時間に各学年3回以上進路セミナーを実施する。 3年生においては、4月から6月下旬の担任面接までの間(4/22～5/1まで)に大阪東ハローワークに講師派遣を協力していただき、5日間の面接練習を実施、コミュニケーション力の向上を目指す。 生徒にとってよい就職選択ができるように以下のアセスメントに取り組み、自己理解をすすめる。 1年生：職業興味検査、2年生：職業適性検査、3年生：職業レディネステスト 進学実績のある大学や専門学校の説明会に参加し、在学生の情報交換に取り組む、生徒への細かな情報提供につとめる。 中小企業家同友会や大阪市経済局などの懇談会等に積極的に参加し、企業の情報収集と求人の増加につとめる。 	

<p>取組内容②【区分 進路指導】 「進路の手引き」を作成し、生徒・保護者に配布する。（マネジメント改革関連）</p>		
<p>指標 「生野工 進路の手引き」を発行し、3年生の保護者が家庭で生徒の進路選択を考える上で参考になるよう、保護者進路説明会で3年生の保護者全員に説明し、参加した保護者の2／3以上の保護者の理解の徹底を図るようにつとめる。</p>		
<p>取組内容③【区分 進路指導】 「進路だより」を発行し、全生徒に配布し、生徒・保護者に進路選択の意識を高める。（マネジメント改革関連）</p>		
<p>指標 月1回の割合で、「進路だより」を発行する。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		